もし本機が不調の場合は、次の表に従って診断し、適切な処置をしてください。
わからない場合は、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。

エンジン関係

現象	原因	処置
始動困難な場合	• 燃料が流れない。	• フューエルタンクを点検し、沈澱している不純物や水分を除く。 • 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	• 燃料送油系統に、空気や水が混入している。	• パイプおよび締付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換または補修しておく。 • 空気抜きをする。 （燃料系統のエア抜き（95 ページ）を参照）
	• 寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	• ラジエータに熱湯をそそぐ。
	• バッテリがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を超える勢いが無い。	• バッテリを充電する。
出力不足の場合	• 燃料不足。	• 燃料を補給する。
	• エアクリーナの目詰まり。	• エレメントを掃除する。
突然停止した場合	• 燃料不足。	• 燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	• 燃料が悪い。	• 良質の燃料に交換する。
	• エンジンオイルの入りすぎ。	• 正規のオイル量にする。
水温計の表示が**[H]**を示すとき（エンジンのオーバーヒート）	• ウォータポンプのシール不良。	• 交換する。
	• ファンベルトの伸び、または切断。	• 調整または交換する。
	• サーモスタットの不良。	• 交換する。
	• 冷却水の不足。	• 規定量まで補給する。
	• ラジエータネット、ラジエータフィンのごみ詰まり。	• 掃除する。
	• ヘッド、クランクケースの錆で冷却水が汚れている。	• 冷却水交換、防錆剤を投入する。
	• ラジエータキャップの不良による冷却水の蒸発。	• ラジエータキャップを交換する。
	• 冷却水通路の腐食。	• 洗浄する。
	• 連続過負荷運転。	• 負荷を軽減する。
	• ヘッドガスケットの破損による冷却水の減少。	• ヘッドガスケットを交換する。
	• エンジンオイルの不足。	• 正規のオイル量にする。
	• 燃料噴射時期の不良。	• 調整する。
	• 低級な燃料を使用している。	• 良質の燃料に交換する。

走行関係

現象	原因	処置
走行不良（変速しても動かない）	• LST コントロールバルブの作動不良。 • 前後進レバーの電気スイッチ不良。 • LST ポンプのサーボシリンダ不良。	• クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
	• 作動油が不足している。	• 油面計規定位置まで補給する。
	• アクセルペダルを踏み込んでいない。	• アクセルペダルを踏む。
走行時の異音	• ユニバーサルジョイント、フランジ取付けボルトのゆるみ。	• 増締めする。
	• デフギヤのかみ合い不良。	• 歯当たりバックラッシを調整する。
	• デフギヤの歯面の摩耗、損傷。	• 分解点検後交換する。
	• デフギヤのベアリングの損傷。	• 分解点検後交換する。
走行ブレーキの効き不良。	• ブレーキ系統にエア混入。	• エア抜きをする。
	• マスタシリンダのピストンカップからの油漏れ。	• クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
	• ブレーキシールの損傷。	• 分解点検後交換する。
	• インチングとの連動、タイミング不良。	• インチングケーブルを調整する。
ブレーキペダルの	• ブレーキペダルのリターンスプリングのへたり。	• 分解点検後交換する。
戻りが悪い。	• マスタシリンダの油穴をふさいでいる。	• クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
ブレーキペダルが沈む。	• ブレーキフルードの漏れ。	• 点検、交換後エア抜きをする。
駐車ブレーキの効き不良。	• ブレーキディスクが摩耗している。	• 点検し交換する。
ハンドルが重い。	• ステアリングコントロールバルブ内の油漏れ。	• クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
	• ステアリングシャフトの軸芯不良。	• 点検、交換する。
	• ステアリングシャフトのスプライン部のがた。	
	• ステアリングシリンダのピンのがた。	

油圧関係

現象	原因	処置
バケット、リフト、チルトが動かない。	• ポンプカップリングが破損している。	• 点検後交換する。
	• 作動油が不足している。	• 補給する。
	• 吸込管の継手部から空気を吸っている。	• 空気進入箇所を点検後、継手ボルトを増締めまたは継手を交換する。
バケット、リフト、チルトが力不足または速度が遅い。	• 油圧ポンプの磨耗による機能低下。	• 点検後交換する。
	• リリーフバルブの設定圧力が低下もしくは開放状態となっている。	• 点検後調整または交換する。
	• 作動油の不足もしくは粘度が適切でない。	• 規定の油を補給または交換する。
	• 吸込管の継手部から空気を吸っている。	• 空気進入箇所を点検後、継手ボルトを増締めまたは継手を交換する。
	• コントロールバルブのスプール部の摩耗、損傷による漏油。	• 点検後該当セクション部を交換する。
	• 操作レバーのケーブルの調整不良で、スプールが全ストローク動いていない。	• 操作レバーのケーブルを調整する。
バケット、リフト、チルトの保持力不足。	• シリンダピストンパッキンの摩耗または破損による破損による内部漏油。	• 点検後パッキン類を交換する。
	• コントロールバルブのスプール部の摩磨耗または損傷による漏油。	• 点検後該当セクション部を交換する。
	• ポートリリーフバルブの設定圧力の低下。	• 点検後再調整または交換する。
1つの動作だけ作動しない。	• ゴムホース、配管継手部からの漏油。	• 交換する。
	• 異物のかみ込みによりコントロールバルブの該当セクションが作動しない。	• 操縦位置を点検後修理する。コントロールバルブを点検後修理する。
	• コントロールバルブのスプールの破損。	• 分解点検後該当セクションを交換する。
	• ホース、配管、継手類の破損。	• 交換する。
操作レバーの動きと作動が合わない。	• 配管、ゴムホースの接続が間違っている。	• 配管、ゴムホースの取付けをやり直す。
異常音が出る。	• 作動油油量の不足。	• 油面計規定量まで補給する。
	• 吸込管、継手部から空気を吸う。	• 空気進入箇所を点検後、修理する。
	• パイプ、ホース、ジョイントの変形。	• 修理または交換する。
	• 寒冷時ギヤポンプのキャビテーションが発生する。	• 暖機運転をする。
作動油油温上昇。	• 油の粘度が高すぎる。	• 規定の油を使用する。
	• メインリリーフバルブの圧力が正しく調整されていない。	• 正しく調整する。
	• 過負荷連続運転を行った場合。	• 過負荷連続運転をやめる。
	• ポンプおよびバルブ中のクリアランスが減少した場合。	• 点検後清掃し、油を交換する。
	• ピストンがストロークエンドへ行っても操作レバーを保持の位置に戻していないため、連続リリーフ状態になる。	• レバーを保持の位置に必ず戻す。